

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：36301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2011

課題番号：21520306

研究課題名（和文）アメリカ環境文学における汚染と身体表象と風景の
エコクリティシズム的研究研究課題名（英文）An Ecocritical Studies in Toxicity, Physical Representation, and
Landscape in American Environmental Literature

研究代表者

伊藤 詔子（ITO SHOKO）

松山大学・薬学部・教授

研究者番号：60071536

研究成果の概要（和文）：アメリカ環境文学のグローバルな影響力を自然表象の変遷のなかで検討し、風景構築と人種の無意識の関係を、主としてソロー、ポーなど 19 世紀男性作家に探った。また 20 世紀後半と 21 世紀、環境文学のもっとも重要なテーマのひとつとなってきた汚染というテーマが、地域の歴史とどのような関係にあり、またどのような身体表象を伴っているかを、ソロー、ポーの影響を受けた現代女性環境文学作家数名を中心に考察した。研究成果は、現代英語環境文学 103 作(映画や音楽も含む)を、汚染、自然表象、アクティヴィズムと環境正義など 10 のテーマに分類し、作家概説、作品紹介と文献解題による辞書兼教科書を、監修共編著として出版し、その他共著 3 冊と、国際学会での発表 2 回を含む 7 回の口頭発表、および論文数編に結実した。

研究成果の概要（英文）：Considering the global influence of American environmental literature on the transformation of natural representation, this study examines the relationship between landscape construction and racial sub consciousness in H.D.Thoreau and Edgar A.Poe. Also it examines the contemporary women environmental literature writers affected by the theme of pollution, and finds out they are accompanied by the representation of body in the late 20th and early 21st century. Outcomes of this study are culminated in co-authored four books and several papers as well as the presentations at several times including ones at the two international conferences.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：エコクリティシズム、風景構築と人種、汚染と身体表象、ゴシック・ネイチャー

1. 研究開始当初の背景

(1)アメリカ文学の風景構築を決定している

のは、一般に荒野への憧憬やピクチャレスク美学の影響とされてきた。しかし 19 世紀ア

ンテベラムにおいては、これに加えて人種に対する作家の無意識やゴシック様式が、風景を構成する重要な因子である。これまでのエコクリティシズム研究では人種意識の作品形成への影響研究は、20世紀後半以降に限定されてきた。そこで、エコロジー思想の提唱者ヘンリー・デイヴィッド・ソロの代表的テキストへの人種問題への意識を探ることがテーマとして浮上してきた。

(2)また多くの動植物表象があり、南部作家として黒人表象も多いエドガー・アラン・ポーにおいても、ゴシック・ジャンルの自然表象の特質を考察する必要が生じてきた。モダンとポストモダン文学にも強い影響力を持つポー文学の自然表象の特異性を、現代作家においても考察する必要があった。

(3)さらに20世紀60年代以降の女性作家の場合は、汚染のテーマが主要な身体表象を生み出しているが、汚染文学の体系的な研究はまだ出ていない。特に汚染には農薬などの問題に加え、核物質汚染が文学のテーマとして前景化しており、この点は(1)の人種ともかかわる地域と人種とジェンダーによる環境格差問題系に連なる。こうした自然表象分析の新たな観点を導入し、グローバルな様相を強めるエコクリティシズムの新たな構築によって、環境文学のジェンダー化された多様な地域の作品を、汚染表象を中心に解明することが必要となった。

2. 研究の目的

(1)H・D・ソロ『ウォールデン』のアフリカ系アメリカ人の記述と風景の関係解明を、ソロが関係した奴隷解放と反奴隷制文書と改革文書との関係で明らかにする。

(2)E・A・ポーのゴシック作品と自然表象の関係を、作家独自の生きもの表象や自然のゴシック的表象、人種意識の考察において、海洋譚を中心に解明する。またポストモダン作家への影響を、ジョイス・キャロル・オーツにおいて考察する。

(3)現代女性環境作家の汚染と身体表象の研究を、レイチェル・カーソンから始め、アメリカの核施設関連の場所で環境文学を発表している女性作家を中心に、場所の核施設の歴史やその作品化の過程、さらにこの分野独自の文体的特質、また作家のアクティヴィズムの実践や作品の社会的影響力についても検討する。

3. 研究の方法

(1)H・D・ソロ『ウォールデン』の第14

章「先の住民と冬の訪問者」におけるアフリカ系アメリカ人の記述と作家の奴隷解放運動との関係を、当時のエネルギーの問題に触れた改革文書「楽園回復」において探る。現代日本におけるソロ思想の影響を、朝日新聞の報道にみて、またソロが豆畑を開墾した場所と、アフリカ系アメリカ人がすんだ場所の関係について、考察をすすめる。日本ソロ学会のシンポジウム、「災害後に読むアメリカン・ルネサンス」によって他の作家と災害との関係も考察・意見交換することで、知見を吸収し、環境文学の社会的影響力について再考してゆく。

(2)E・A・ポーのゴシックと自然表象の関係を、主として『アーサー・ゴードン・ピムの物語』において探るため、作品中の具体的な動植物への言及をリストアップし、前後の文脈からその3つの側面——自然史的記述、商品として海洋資源としての側面、キメラ的生きものの創造——に分けて特異性を考察する。またそれを現代のポスト・ゴシックジャンルの担い手、ジョイス・キャロル・オーツの自然表象や、プロット展開と比較する。作家の生誕200年祭が行われる米フィラデルフィアで研究発表と資料調査を実施して、作家のすんだ大都会の出版界の状況などの影響力考察をより一層進展させる。

(3)現代女性環境作家の汚染と身体表象の関係考察を以下の作家の代表作と、場所性において展開する

- ① レイチェル・カーソン
- ② スザンヌ・アントネット (ニュー・ジャージー州)
- ③ ハンフォードの作家たち(ワシントン州ハンフォード核プラント近辺)
- ④ T・T・ウィリアムス(ユタ州およびネヴァダ核実験場近辺)

4. 研究成果

(1)ソロの改革文書と奴隷解放運動の関係を明らかにすることで、『ウォールデン』第14章の黒人の存在に新たな読解を行った。成果はソロ学会シンポジウムで発表し、以下の仕事に繋がった。この分野では米でも議論が始まったので、本研究は日本からの研究成果として、今後基本文献となるはずである。

- ① 共著中の論文「3.11後に読むソロ」
- ② MESA(多民族研究学会)2011年度特別講演「ブラック・ウォールデンとソロの8月1日」として話した。
- ③ 監修編著の中の序論「環境文学とエコクリティシズムの現在」で、エコクリティシズムにおける人種の視点の重要性と、環境批評のグローバル化、脱アメリカ化の現状を論じた。

(2) 『ピム』の中の多様な自然表象を、ゴシック・ネイチャーの概念導入によって解明し、日本ポー学会のシンポジウム「未完の水城を彷徨って」の中で発表した。また『ピム』のゴシック・ネイチャーの諸相」としてポー学会の雑誌へ掲載論文とした。さらにオーツとの比較論を、共著『カウンターナラティブで語るアメリカ文学』のなかの論文とした。ゴシックという文芸概念に、エコクリティシズムからアプローチし、ゴシック・ネイチャーという新しい用語により説明した、国内では初めての仕事となる。

またオーツの特異な自然表象とポーとの比較は、監修執筆した『オルタナティブ・ヴォイスを聴く-エスニシティとジェンダーでよむ 現代英語環境文学 103 選』の、第2章、作品11、「失われたエデンとゴシック・ネイチャー——オーツ『北門の傍で/洪水に流されて』で展開した。また監修共著『カウンターナラティブで語るアメリカ文学』においては、ポーやオーツに、従来のアメリカ的自然観や、親荒野的感性を覆す、転覆的自然表象への志向があり、それが現在ポスト・ゴシックとして、新たな動きとなっていることを論じた。なおフィラデルフィアでの調査は日本ポー学会誌『ポー研究』(2, 3号, 2011)巻頭言「日本ポー学会創立5年目を迎えて」において、フィラデルフィア調査旅行記の形で報告した。

(3) レイチェル・カーソンの汚染の言説の影響と、新たな汚染源である核による身体の汚染を描く作家たち、核燃料化学工場のあるニュージャージーのスザンヌ・アントネッタ、ハンフォードの作家、テリ・ヘイン、グレッタ・グレガー、ユタ州の作家、T・T・ウィリアムスについて、汚染と身体の標題で環境文学作品集を監修し、出版することができた。書名『オルタナティブ・ヴォイスを聴く-エスニシティとジェンダーでよむ 現代英語環境文学 103 選』。大学の教室で使えるtextとして編集し、環境文学の射程を広げ、カリブ、アフリカも含む英語環境文学作家の掘り起こし、作家の汚染のテーマへの貢献を定位し、10の環境文学基本テーマを提案する本となった。またこの書籍は、筆者が関係するエコクリティシズム研究会のみならず、MESA, AALA(アジア系アメリカ文学研究会)の論者10名を招聘して、環境文学の国際化とエコクリティシズムのグローバルな展開を体現する形とした。なお本科学研究による研究成果の、この書籍への収録論文は以下である。

① 「環境文学とエコクリティシズムの現在」——全体の序論であり、従来のアメリカ中心

のエコクリティシズムから、第2波、第3波の、エコクリティシズムのグローバルな拡大と、その歴史的経緯について論じた。

① 「薬品汚染と女性ドキュメンタリーの世界」——DVD作品の意義と解説) 『レイチェルの娘たち』/『青いビニール』の解説を2本のコラムの形で書いた。

② 「身体のトラウマとメモワールの文体——有害化学物質の汚染についての作品と文体 Susanne Antonetta, *Body Toxic: An Environmental Memoir* (2001)」として収録された。

③ 「原爆製造と土地の篡奪、語りによる歴史の回復—Teri Hein, *Atomic Farm Girls* (2000) テリ・ヘイン『ハンフォードの農家の娘達』として発表した。

④ 「自然の再発見——失われたエデンとゴシック・ネイチャー——オーツの作品の自然表象の研究で、Joyce Carol Oates, *By the North Gate* (1963); *Upon the Sweeping Flood* (1968) (ジョイス・キャロル・オーツ『北門の傍で』/『洪水に流されて』論)」として収録された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

① 伊藤詔子「密室の謎とダゲレオタイプ」査読有 中四国アメリカ文学研究 47 2011、43-47

② 伊藤詔子「汚染の身体とアメリカ」、査読有、『アメリカ文学研究のニューフロンティア』収録。南雲堂、2009、299-319.

〔学会発表〕(計7件)

① Shoko ITOH “Memoir as a Style of Nuclear Toxic Literature” ASLE-US 年次大会 2011年6月23日米国 Indiana University, Bloomington.

② 伊藤詔子「ポーとオーツ」シンポジウム「ポーとアメリカ」日本英文学会第9部門、2010年5月22日、神戸大学

③ Shoko ITOH “Gothic Windows of Poe and Faulkner: Absalom, Absalom!, “The Fall of the House of Usher” and Others” International Poe Conference (Poe 国際学会) 2009年10月9日、米国 Pen’s Landing, Hotel Hyatt, Philadelphia.

〔図書〕(計4件)

- ① 伊藤詔子監修共編著『オールタナティブ・
ヴォイスを聞く--エスニシ ティとジェ
ンダーで読む現代環境文学 103 選』音羽
書房鶴見書店、2011、392。
- ② 小倉いずみ編、伊藤詔子他日本ソロー学
会共著『アメリカ文学の源流を求めてー
ソロー没後 150 年記念論集』金星堂、
2012、400。
(科研研究成果公開助成費による出版)
- ③ 伊藤詔子監修、新田玲子編共著『カウ
ンターナラティブで語るアメリカ文学』音
羽書房鶴見書店、2012、印刷中。

[その他]

ホームページ等

エコクリティシズム研究会：

<http://ns1.shudo-u.ac.jp/~shiotah/ecoc.html>

<http://ns1.shudo-u.ac.jp/~shiotah/alternative.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 詔子 (ITO SHOKO)

松山大学・薬学部・教授

研究者番号：60071536